

2014年度温室効果ガス^{※1}排出量の調査結果について

名古屋市環境局環境企画課
平成29年5月

「低炭素都市なごや戦略実行計画」の進行管理として、2014年度（確定値）および2015年度（速報値^{※2}）における温室効果ガス排出量の調査結果を取りまとめましたので、お知らせします。

- 2014年度の温室効果ガス排出量（確定値）は、基準年度（1990年度）から13.2%減少し、前年度（2013年度）から4.8%減少しました。エネルギー消費量が前年度より減少したことに加え、電気事業者による取組みにより電力原単位^{※3}が改善したことによるものです（電力原単位推移については3ページ参照）。
- 2015年度の温室効果ガス排出量（速報値）は、基準年度（1990年度）から15.4%減少し、前年度（2014年度）から2.6%減少しました。エネルギー消費量が前年度より減少したことに加え、電気事業者による取組みにより電力原単位が改善したことによるものです。

温室効果ガス排出量の推移

区分	1990年度 (基準)	2013年度	2014年度 (確定値)	2015年度 (速報値)	2020年度 (目標)
排出量 (万トン-CO ₂)	1,739	1,587	1,511	1,472	1,310 ^{※4}
1990年度比		△ 8.8%	△13.2%	△15.4%	△ 25%
前年度比		+ 1.5%	△ 4.8%	△ 2.6%	
電力原単位 (kg-CO ₂ /kWh)	0.464	0.513	0.497	0.486	0.370

(参考) 電力原単位を基準年度の0.464 kg-CO₂/kWhに固定した場合^{※5}

区分	1990年度	2013年度	2014年度 (確定値)	2015年度 (速報値)	2020年度
排出量 (万トン-CO ₂)	1,739	1,512	1,461	1,440	1,455
1990年度比		△ 13.1%	△16.0%	△17.2%	△ 16.3%
前年度比		+ 1.9%	△ 3.4%	△ 1.5%	

※1 温室効果ガスとは、二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O)、ハイドロフルオロカーボン類 (HFC)、パーフルオロカーボン類 (PFC)、六ふつ化硫黄 (SF₆)、三ふつ化窒素 (NF₃) の7種類を指します。

※2 速報値は、重油、灯油などの燃料等一部のデータを2014年度値で代用していることから、今後とりまとめる確定値との間に誤差が生じます。

※3 電力原単位は、1キロワット時の電気を使用した場合の二酸化炭素 (CO₂) 排出量のこと、化石燃料の燃焼 (火力)、原子力、水力、風力等の発電方式の比率によって変動します。

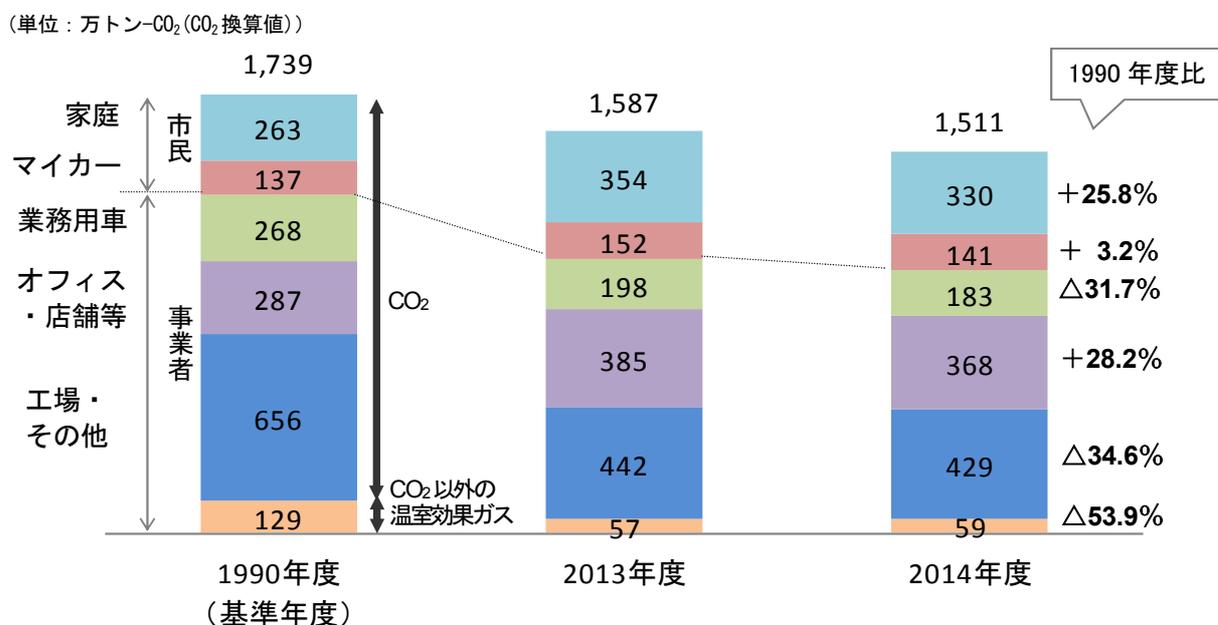
※4 温室効果ガス排出量の削減目標は京都メカニズムクレジットを反映させた数値で設定しています。しかし、2013年度から始まった京都議定書第二約束期間に日本が参加しないこととしたため、目標以外の数値については実排出量で記載しています。

※5 電力原単位が年度毎に変動することで排出量の数値が増減することから、1990年度の電力原単位 (0.464kg-CO₂/kWh) を固定して、現状どの程度目標に近づいているかがわかるようにしたものです。

1 2014年度の温室効果ガス排出量（確定値）について

- 部門別排出量を基準年度と比較すると、業務用車、工場・その他からの二酸化炭素（CO₂）排出量は減少しました。一方、家庭、マイカー、オフィス・店舗等からの二酸化炭素（CO₂）排出量は増加しました。
- 2014年度は、冬の平均気温は前年度とほぼ同じ（前年度差-0.1℃）となり、夏の平均気温は前年度より低く（前年度差-0.8℃）、真夏日日数が前年度より20日減少しました。
また、2014年4月に実施された消費税率の引き上げに伴い、幅広い分野で経済活動が低迷し、本市の実質経済成長率は2年ぶりのマイナス成長となりました。
これに加え、市民のエコライフや事業者の環境に配慮した取組みにより、2014年度における市内のエネルギー消費量は前年度から4.1%減少しました。
- また、電気事業者の取組みにより電力原単位が前年度より3.1%改善したことから、電気の使用に伴う二酸化炭素（CO₂）排出量が減少しました。
- 以上から、全体として温室効果ガス排出量は前年度より減少しました。（基準年度より△13.2%、前年度より△4.8%）。

部門別温室効果ガス排出量の推移

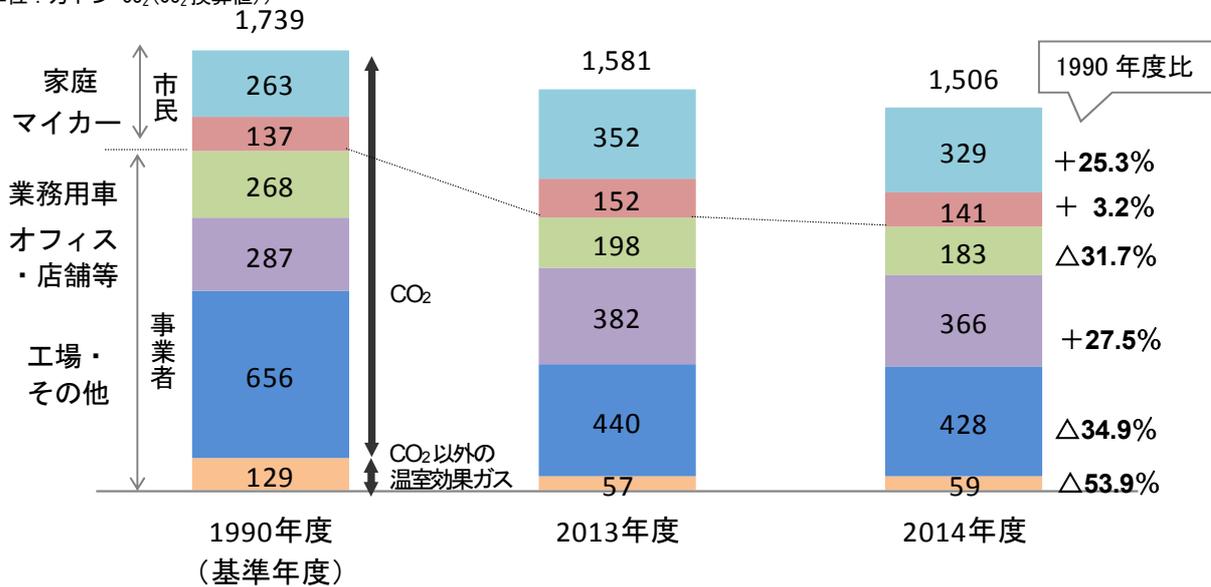


(参考) 京都メカニズムクレジット^{※6} 反映後の温室効果ガス排出量

- 部門別排出量を基準年度と比較すると、業務用車、工場・その他からの二酸化炭素(CO₂)排出量は減少しました。一方、家庭、マイカー、オフィス・店舗等からの二酸化炭素(CO₂)排出量は増加しました。
- 市内エネルギー消費量の減少のほか、電気事業者の取組みによって電力原単位が前年度より2.9%改善したことから電気の使用に伴う二酸化炭素(CO₂)排出量が減少しました。
- 全体として温室効果ガス排出量は前年度より減少する結果となりました(基準年度より△13.4%、前年度より△4.7%)。

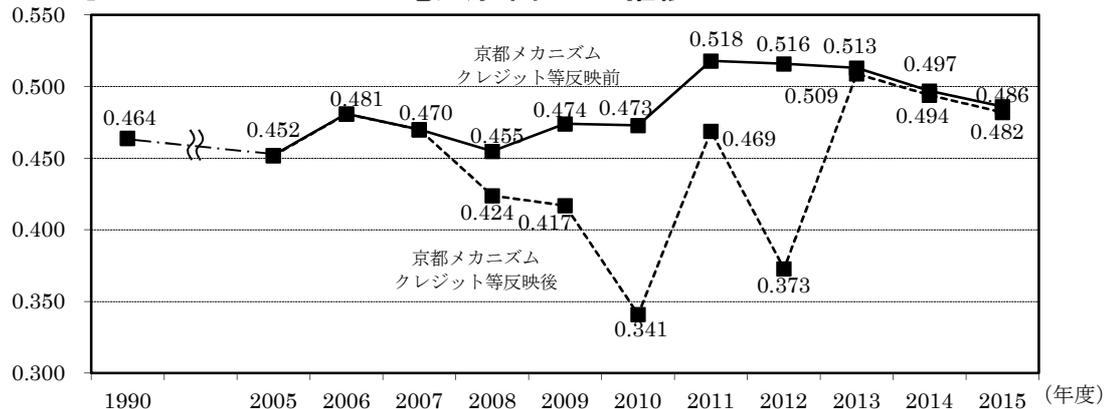
部門別温室効果ガス排出量の推移(京都メカニズムクレジット反映後排出量)

(単位: 万トン-CO₂(CO₂換算値))



(kg-CO₂/kWh)

電力原単位^{※7}の推移



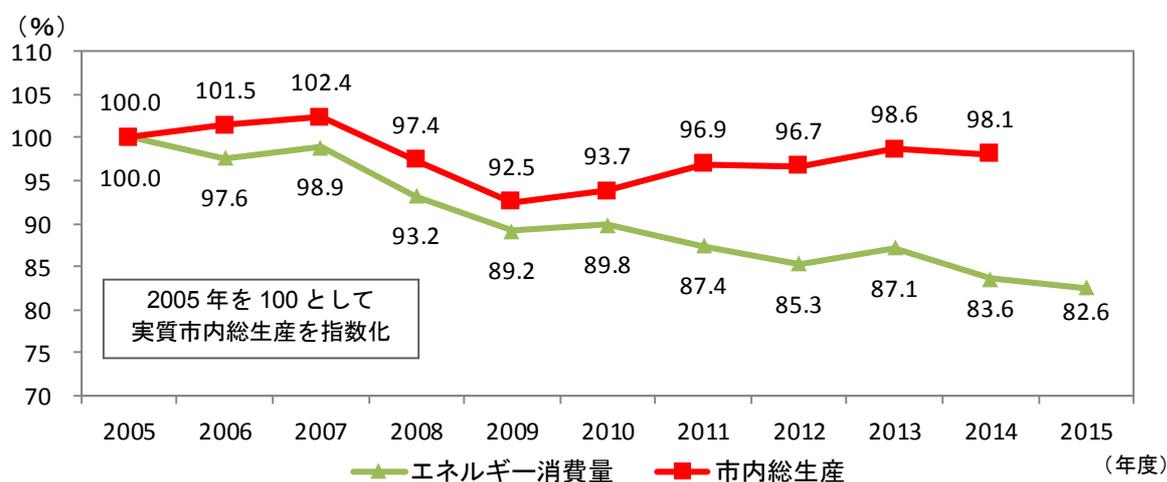
※6 京都メカニズムクレジットとは「京都議定書」で定められた、温室効果ガス削減をより柔軟に行うために、海外における排出削減量を自国の排出量削減分に割り当てることができるものです。

※7 2013年度以降、電力事業者による京都メカニズムクレジット等の反映量が減少したため、電力原単位における京都メカニズムクレジット反映前後の差はほとんどなくなりました。

2 2015年度の温室効果ガス排出量（速報値）について

- 2015年度は、市民のエコライフや事業者の環境に配慮した取組みに加えて、冬の平均気温が1891年の統計開始以来最も高い7.2℃（前年度差+1.9℃）となり、夏の平均気温が3年ぶりに平年並（前年度差-0.6℃）となったことから、エネルギー消費量が減少しました。
- エネルギー消費量の減少に加えて、電力原単位が前年度より2.2%改善したことで、電気の使用に伴う二酸化炭素（CO₂）排出量が減少し、全体として温室効果ガス排出量も前年度より減少する結果となりました（基準年度より△15.4%、前年度より△2.6%）。

<参考> 市内総生産と最終エネルギー消費量の推移



※ 2015年度の市内総生産は公表前です。

注) 数値は四捨五入しているため、合計等が一致しない場合があります。